

平成26年度 第2回 太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
 中央水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成27年1月～6月)のポイント

海況

黒潮は、平成27年2月までN型(※1)、3月にB型(※1)、4月以降C型(※1)となる。

沿岸水温は、潮岬以西が「平年並」～「高め」、熊野灘～伊豆諸島北部海域が概ね「低め」、B型時に「高め」、鹿島灘～常磐南部海域が「平年並」～「高め」で推移する。

※1 黒潮を遠州灘沖から伊豆諸島周辺海域の流路で分類する。(黒潮の流型分類は、別添中央ブロック海況予報図1をご参照ください。)

N型：八丈島の北を通過、南端が北緯33度以北

B型：八丈島の北を通過、南端が北緯32度以北で33度以南

C型：八丈島の南を通過

※2 平年並：平年値±0.5℃程度、低め：平年値-1.5℃程度、
 高め：平年値+1.5℃程度

漁況(来遊量予測)

マイワシ

1歳魚主体に前年並～上回る海域が多い。

カタクチワシ

前年並～下回る。

ウルメイワシ

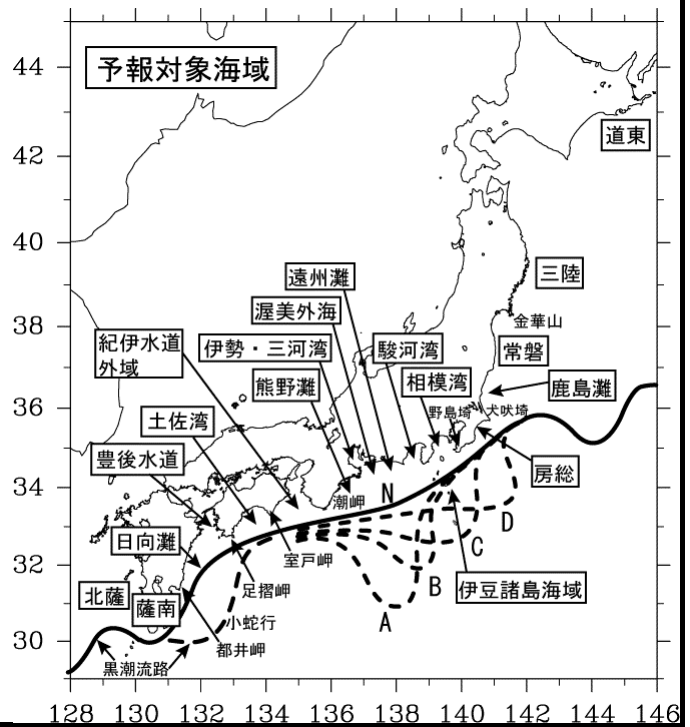
海域によって異なるが、全体としては豊漁であった前年を下回る。

マアジ

前年並～下回る。

マサバ・ゴマサバ

マサバは伊豆諸島以西では前年並～上回り、
 犬吠埼以北では多かった前年を下回るが高水準。
 ゴマサバは前年を上回る海域が多い。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 梶脇、影沼澤

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

(予報の詳細についてのお問い合わせ先)

独立行政法人水産総合研究センター 中央水産研究所 業務推進部

担当：市橋、川崎

電話：045-788-7615、ファックス：045-788-5001

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://nrifs.fra.affrc.go.jp/>

中央ブロック海況予報

今後の見通し（2015年1月～6月）

(1) 黒潮（注：黒潮流型は図1を参照のこと）

◎潮岬以西

- ・都井岬沖では、1月までは大きく離岸し、2月以降は小蛇行の東進により接岸していく。
- ・足摺岬～潮岬沖では、2月まで小蛇行の東進により一時的に離岸する。
- ・足摺岬～室戸岬沖では、3月以降は接岸となる。
- ・潮岬沖では、3月は離岸し、4月以降は接岸となる。

◎潮岬以東

- ・2月まではN型で推移する。
- ・3月にB型、4月以降はC型となる。
- ・房総沖では、2月までは接岸傾向、3月以降は離接岸を繰り返す。

(2) 薩南～房総沿岸域

- ・潮岬以西では、黒潮の離接岸に伴って一時的に暖水が波及することがある。
- ・熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は、2月までは概ね冷水域となる。3月は黒潮流路の変動に伴い、内側域への暖水波及がある。4月以降は、概ね冷水域に覆われるが、一時的に暖水波及がある。
- ・伊豆諸島南部海域は、3月までは概ね暖水域に覆われる。4月以降は冷水域に覆われる。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・黒潮流路の変動に伴い、沿岸に一時的に暖水が波及することがある。冷水の波及は少ない。

(4) 沿岸水温

- ・潮岬以西は、「平年並」～「高め」で推移する。
- ・熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は、2月までは「平年並」～「低め」で推移する。3月のB型時には、暖水波及により「高め」となる。4月以降は「平年並」～「低め」で推移するが、暖水波及時には一時的に「高め」となる。
- ・伊豆諸島南部海域は、3月まで「高め」で推移する。4月以降のC型時には「低め」となる。
- ・房総沿岸域は、2月まで概ね「平年並」で推移する。3月以降は「平年並」～「やや高め」で推移する。
- ・鹿島灘～常磐南部海域は、「平年並」～「高め」で推移する。

※ 平年並＝平年値±0.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.0℃程度、
（高め、低め）＝平年値±1.5℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±2.5℃以上

経過 (2014年7月～12月) (注：経過は図2を参照のこと)

(1) 黒潮

- ・ N型で推移した。
- ・ 11月下旬に、都井岬沖に小蛇行が形成された。

(2) 薩南～房総沿岸域

◎薩南海域

- ・ 黒潮北縁の月平均位置は、7月～9月は屋久島南付近の平均的な位置、10月は接岸傾向、11月は屋久島南付近の平均的な位置で推移した。

◎潮岬以西

- ・ 7月下旬、都井岬沖では離岸傾向が解消し、以降は接岸傾向となった。
- ・ 7月以降、足摺岬～潮岬沖では接岸傾向で推移した。
- ・ 11月下旬、都井岬沖で小蛇行が形成され「著しく離岸」となった。

◎潮岬以東

- ・ 熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は概ね冷水域に覆われた。
- ・ 11月下旬、伊豆諸島北部海域から相模湾と遠州灘～熊野灘へ暖水が波及した。
- ・ 伊豆諸島南部海域は、暖水域に覆われていた。
- ・ 野島埼沖での黒潮は、10月まで概ね平年並で推移した。11月に離岸し、12月に概ね平年並になった。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 7月、沖合には暖水の影響が見られ、沿岸域には親潮系冷水が波及した。
- ・ 8月～9月、沿岸を中心に冷水が波及した。
- ・ 10月、冷水の影響が残った。
- ・ 11月、黒潮系暖水が広く波及した。
- ・ 12月、黒潮系暖水の影響が残った。

現 況 (2014 年 12 月 12 日現在)

(1) 黒 潮

- ・ N 型流路である。
- ・ 都井岬沖に小蛇行が形成されている。

(2) 薩南～房総沿岸域

◎潮岬以西

- ・ 黒潮は、都井岬沖で「著しく離岸」、足摺岬沖で「かなり離岸」、室戸岬沖で「やや離岸」、潮岬沖で「接岸」している。

◎潮岬以东

- ・ 熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部は概ね冷水域にある。
- ・ 伊豆諸島南部海域は、暖水域に覆われている。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 暖水が波及している。

※ 黒潮の離接岸に関する語句表記は、川合英夫(1972)：海洋物理Ⅱ、東海大学出版会に準じた。

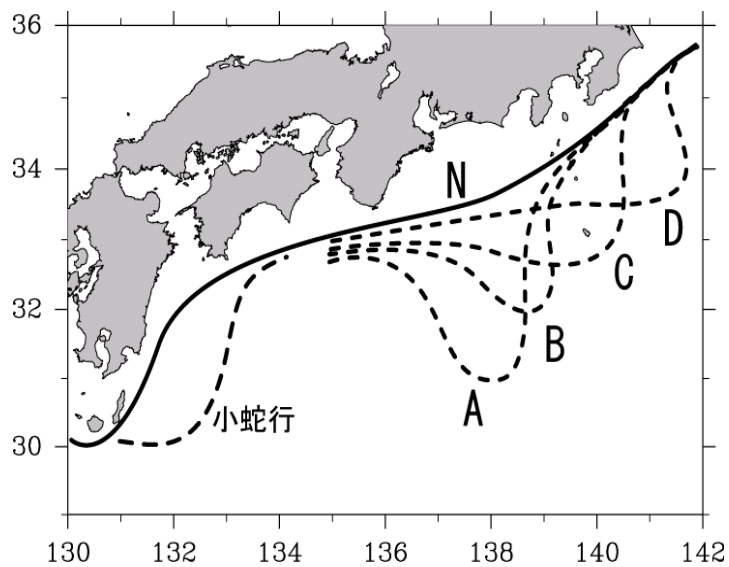


図 1 黒潮流型の分類

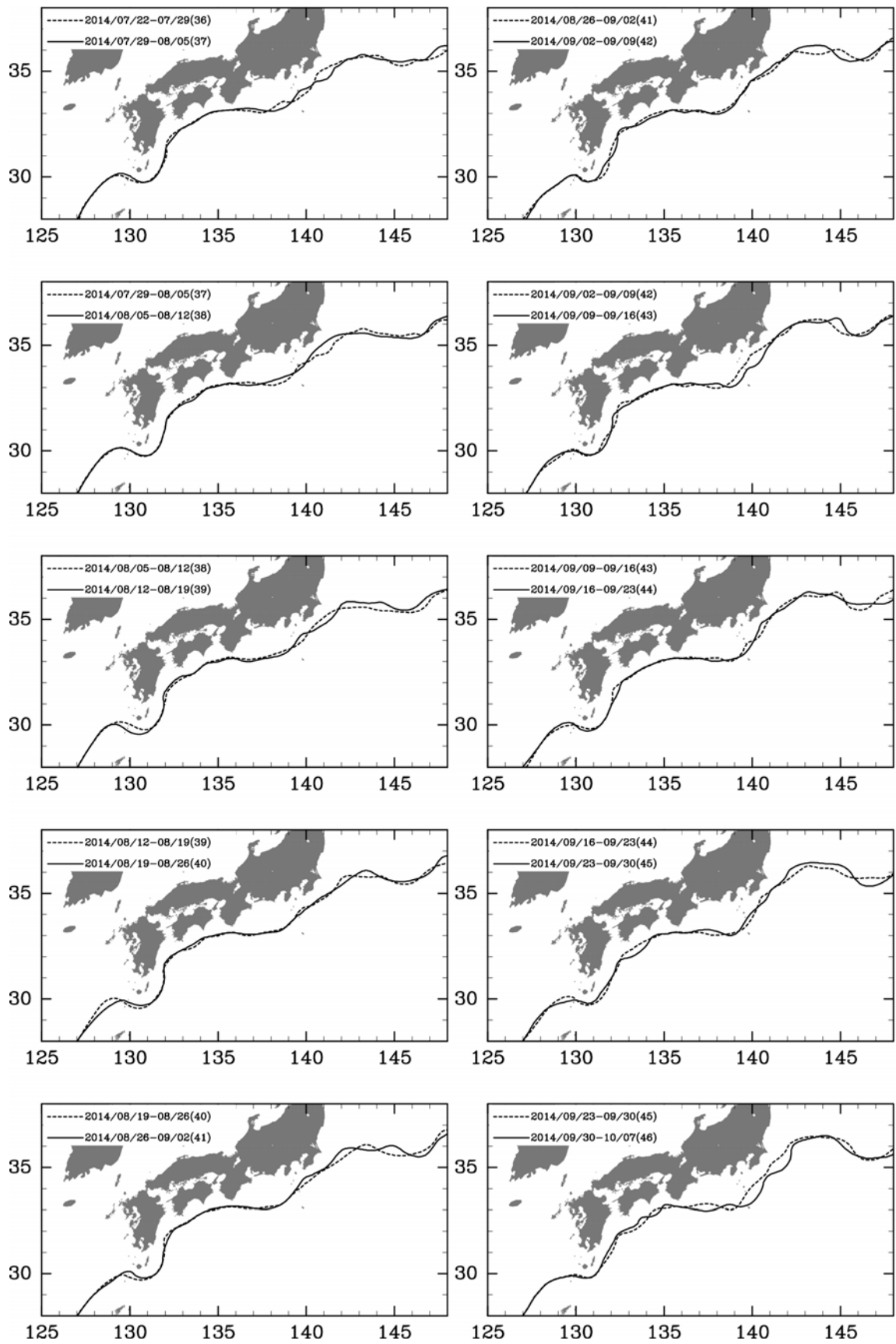


図2 黒潮流軸のパターン

(2014年7月~12月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

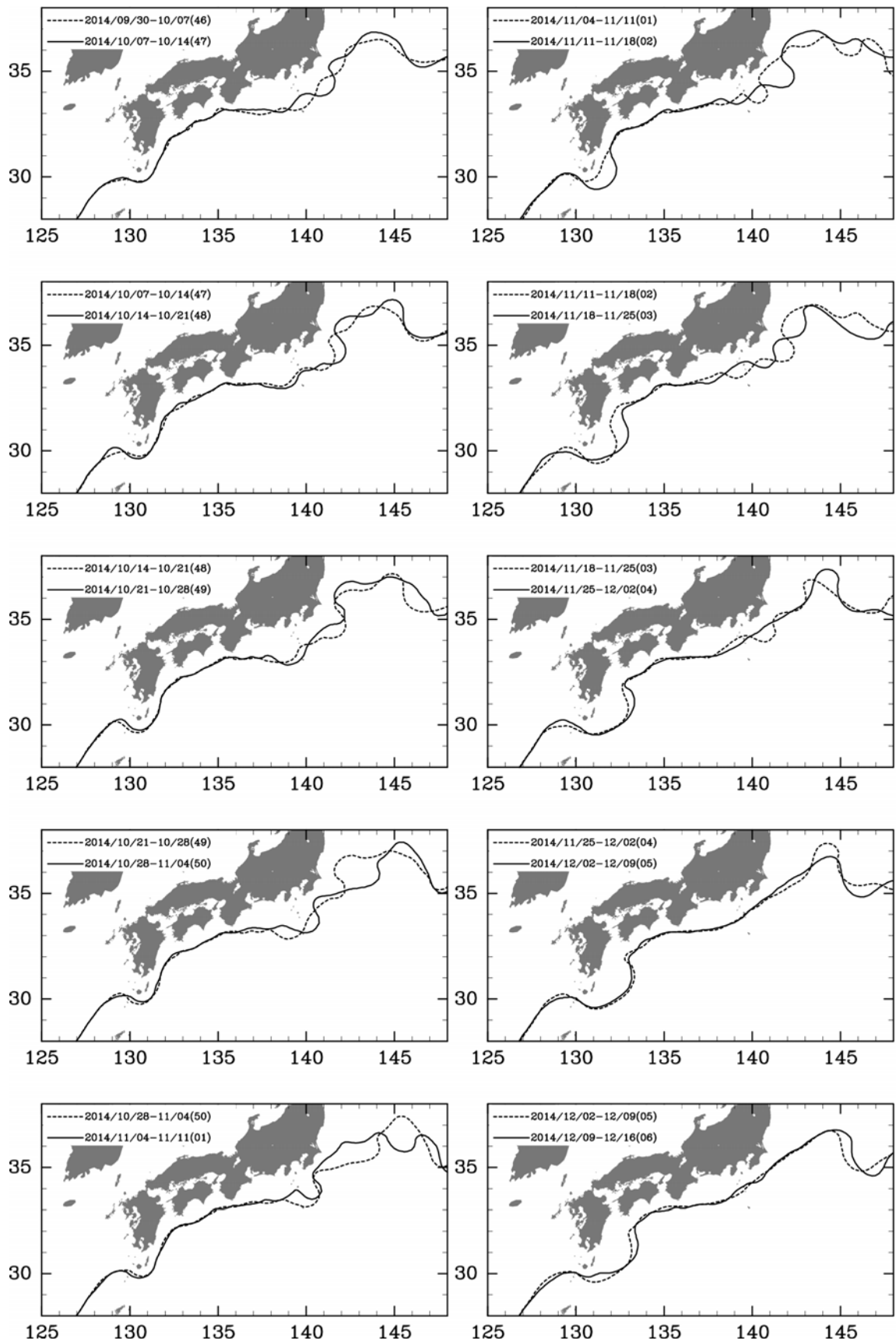


図2 (続き) 黒潮流軸のパターン

(2014年7月~12月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

マイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2015（平成27）年1月～6月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2015（平成27）年級群）、1歳魚（2014（平成26）年級群）、2歳魚（2013（平成25）年級群）、3歳（2012（平成24）年級群）以上。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩、薩南海域、日向灘では前年を下回る。豊後水道南部では前年を上回る。宿毛湾、土佐湾、紀伊水道外域西部では前年並～上回る。紀伊水道外域東部では前年を下回る。熊野灘では前年を上回る。

(2) 漁期・漁場：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：北薩～土佐湾では、期前半は16 cm～20 cm 前後（1歳以上）、期後半は7 cm～12 cm 前後（0歳魚）主体。紀伊水道外域～熊野灘では13 cm 以上（1歳以上）。

2. 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：伊勢・三河湾では前年並。駿河湾、相模湾西部では前年並～上回る。相模湾東部では前年並。

(2) 漁期・漁場：伊勢・三河湾では4月以降、駿河湾、相模湾西部では2月以降、相模湾東部では期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：伊勢・三河湾では12 cm 以下（0歳魚）主体。駿河湾、相模湾では13 cm～16 cm 前後（1歳魚）主体に19 cm～20 cm 前後（2歳魚）が混じる。

3. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：前年並～上回る。

(2) 漁期・漁場：まき網の漁場は、期前半は犬吠埼周辺～常磐南部海域で断続的に形成される。期後半はさらに仙台湾にも形成される。6月には三陸南部海域にも形成され、まとまった漁場形成がある。仙台湾～三陸南部海域の定置網では2月まで、および5月以降漁獲される。

(3) 魚体：13 cm～17 cm 前後（1歳魚）主体に18 cm～22 cm 前後（2歳以上）が混じる。

漁況の経過（2014年7月～12月）および見通し（2015年1月～6月）についての説明

1. 資源状態

マイワシ太平洋系群の資源量は、1970年代後半に増加し、1980年代は1千万トン以上の高い水準で推移したが、1990年代に入って減少して1994年に100万トンを下回り、1999年までは70万トン～90万トン台で推移した後再び減少し、2002年以降2007年まで10万トン台の低い水準で推移した。その後2008年～2013年に比較的良好な加入が続いたことと漁獲圧が低下したことにより増加し、2014年は70万トン以上になったと推定されている。

2011年級群は、0歳魚時点で、沿岸域では各地の漁獲が前年を上回り、広い範囲で高い加入がみられた。沖合域の調査船調査結果からは、卓越して高水準であった2010年級群には及ばないものの近年では比較的高水準の加入であることが示された。2014年もこれまで3歳魚として各地で漁獲対象となっているとともに漁場以遠の沖合の調査船調査でも分布がみられた。今期も4歳魚として漁獲対象になるが残存資源量は少なくなっていると考えられる。

2012年級群は、0歳魚時点で、沖合域の調査船調査結果からは比較的高水準の加入であることが示された。沿岸域では、相模湾以西の各地では漁獲が2011年級群の同期を下回ったものの、冬春季の常磐～房総海域のまき網漁況に基づく未成魚越冬群資源量指数（千葉水総研）が2000年以降で2010年級群、2013年級群に次ぐ高さであり、加入量水準は比較的高いと推定された。2014年もこれまで2歳魚として各地で漁

獲対象となっているとともに漁場以遠の沖合の調査船調査でも分布がみられた。今期も 3 歳魚として漁獲対象になると考えられる。

2013 年級群は、0 歳魚時点で、沖合域の調査船調査結果からは比較的高水準の加入であることが示された。沿岸域では、未成魚越冬群資源量指数が 2000 年以降で 2010 年級群に次いで高かったが、各地での 0 歳魚としての漁獲は 2012 年級群の同期を概ね下回る低調な漁況であった。2014 年は 1 歳魚として、沖合の調査船調査では分布が多く見られたものの、沿岸域での漁獲は 2012 年級群の同期を下回っている。これまで得られている情報から加入量水準は 2012 年級群並と判断される。今期も 2 歳魚として漁獲対象になると考えられる。

2014 年級群は、沿岸域では、マシラスが日向灘、渥美外海～駿河湾～相模湾で前年を大きく上回る漁獲量となるなど各地で好漁であった。さらに、幼魚～未成魚が各地で好漁であり、夏季の房総海域の 2 そうまき網や秋季の熊野灘のまき網、秋季以降の三陸定置網など、多くの海域で近年の最高漁獲量となり、広い範囲で高い加入がみられた。沖合域では、5 月～7 月の調査船調査からは近年では比較的高い加入量水準と推定された。その後の 6 月～10 月の三陸～道東海域流し網調査（釧路水試）では CPUE が 18.2 尾/回であり、過去の同調査（21 年間）で最も高かった。9 月～10 月の秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研）における出現率は 63.6%であり、過去の同調査（10 年間）で 2010 年（85.0%）、2005 年（72.7%）に次いで 3 番目に高かった。有漁点の CPUE 中央値は 66.5 尾/網であり、2005 年（47.5 尾/網）を上回り、2010 年（131.5 尾/網）に次いで 2 番目に高かった。これらの情報から、加入量水準は近年において比較的高いと判断され、今期も 1 歳魚として主たる漁獲対象になると考えられる。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

(1) 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

・来遊量：

北薩、薩南海域では 4 月まで 1 歳魚（2014 年級群）主体となるが、前期の 0 歳魚（2014 年級群）の漁獲が前年を下回っていることから、来遊量は前年を下回る。日向灘では 5 月まで 1 歳以上（産卵親魚）が主体となるが、周辺海域の漁況経過から来遊量は好調であった前年を下回ると考えられる。豊後水道南部では前期の 0 歳魚の漁獲量が前年を大きく上回っていることから来遊量は前年を上回る。宿毛湾、土佐湾では前期の 0 歳魚の漁況は低調であったが周辺海域では来遊水準が高いこと、および定置網で一定水準の 2 歳魚（2013 年級群）の来遊があるとみられることから、来遊量は前年並～上回る。紀伊水道外域西部では 1、2 歳魚の来遊量が前年並～上回る。紀伊水道外域東部では前期に 0 歳魚主体の定置網の漁獲量が前年を上回り、来遊状況は良好と見込まれ、来遊量は平年（過去 10 年平均）を上回るが、好調であった前年を下回る。熊野灘では、今期は秋季まで漁獲対象となった魚群は逸散して冬春季に来遊する魚群が主体となると考えられている。房総以北海域からの 1 歳魚の未成魚越冬群の来遊は、黒潮暖水波及が強く、南下を促す条件が弱い海況であることから前年に引き続き低調となるが、産卵親魚群は周辺海域でのこれまでの漁況経過から前年より多いとみられ、海況も産卵親魚群対象に好漁となった前年同様となるとみられるため、来遊量は 1 歳魚および 2 歳以上の産卵親魚群主体に前年を上回る。

・漁期・漁場：各海域とも期を通じて漁獲される。

・魚体：

北薩、薩南海域では 4 月までは 16 cm～18 cm の 1 歳魚、5 月以降は 9 cm～12 cm の 0 歳魚が主体となる。日向灘では 5 月までは 18 cm～19 cm の 1 歳以上、5 月以降は 9 cm～12 cm の 0 歳魚が主体となる。豊後水道南部、宿毛湾、土佐湾では 3 月までは 20 cm 前後の 1、2 歳魚、4 月以降は 7 cm～12 cm 前後の 0 歳魚が主体となる。紀伊水道外域～熊野灘では 13 cm～19 cm の 1 歳魚と 20 cm 以上の 2 歳以上が漁獲される。

(2) 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

・来遊量：

伊勢・三河湾では、今期の主な漁獲対象は0歳魚（2015年級群）であり、11月にマシラスの来遊がみられるなど沿岸域の資源水準は低くはないと推定されるが、近年の来遊状況から6月までに高い来遊量は見込まれず前年並となる。駿河湾、相模湾では、主な漁獲対象は1歳魚（2014年級群）であり、前期の0歳魚（2014年級群）の漁獲は前年を上回って好調に経過しており、沿岸域の資源水準は高いと判断されることから、来遊量は駿河湾、相模湾西部では前年並～上回り、相模湾東部では前年並となる。

・漁期・漁場：

伊勢・三河湾では4月以降、0歳魚が来遊する。駿河湾、相模湾西部では2月以降まき網で漁獲される。相模湾東部では期を通じて漁獲される。伊豆諸島海域のサバ棒受網・たもすくいで混獲がみられる。

・魚体：

伊勢・三河湾では12cm以下の0歳魚が主体となる。駿河湾、相模湾西部では15cm～16cm前後の1歳魚主体に19cm～20cm前後の2歳魚が混じる。相模湾東部では13cm～16cmの1歳魚主体となる。

(3) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

・来遊量：

各年級群の資源状態と近年の漁獲状況から、今期の漁獲対象は1歳魚（2014年級群）主体で2歳（2013年級群）以上が混じる。1歳魚は比較的高い加入量水準と判断されており、前期の三陸北部海域のまき網や仙台湾～三陸海域の定置網で0歳魚として好漁となっている。2歳以上は、前期の道東海域でまとまった漁獲がみられ、今期も漁獲対象となり得る残存資源量が見込まれる。これらから、来遊量は前年並～上回ると考えられる。

・漁期・漁場：

まき網の漁場は、期前半は犬吠埼周辺～常磐南部海域で漁場が形成され、1月は南下群を対象にややまとまった漁場形成となる可能性がある。2月以降は断続的に形成される。期後半にはさらに仙台湾にも形成され、6月には三陸南部海域にも広がり、まとまった漁場形成がある。常磐北部海域は現在まき網の操業自粛措置がとられている。仙台湾～三陸南部海域の定置網では、前期からの漁獲が2月まで続き、5月以降再び漁獲される。道東海域ではまとまった漁獲はない。

・魚体：

期前半は13cm～15cm前後（小中羽）、4月～6月は15cm～17cm前後（中羽）の1歳魚主体となり、18cm～20cm前後（中羽～ニタリ）の2歳魚と20cm～22cm前後（ニタリ～大羽）の3歳以上が混じる。

カタクチイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2015（平成27）年1月～6月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2015（平成27）年級群）、1歳魚（2014（平成26）年級群）、および2歳魚（2013（平成25）年級群）。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩～薩南、日向灘では前年並。豊後水道南部西側では前年並～下回る。豊後水道南部東側～土佐湾では前年を下回る。紀伊水道外域ではまとまった漁獲がない。

(2) 漁期：全期間。

(3) 魚体：11cm以下の1歳魚および12cm以上の2歳魚。

2. 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：熊野灘では前年を下回る。伊勢・三河湾～渥美外海では前年並。駿河湾では前年並～下回る。相模湾では前年を下回る。

(2) 漁期：全期間。伊勢・三河湾～渥美外海および駿河湾では4月以降に漁獲がある。

(3) 魚体：伊勢・三河湾～渥美外海および相模湾では12cm以下の1歳魚主体。その他の海域では11cm～14cmの1歳魚および2歳魚。

3. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：房総～三陸南部海域では前年並～下回る。三陸北部海域、道東海域ではほとんど漁獲がない。

(2) 漁期・漁場：まき網は常磐南部～房総海域で全期間。三陸南部海域の定置網は2月までと5月以降。

(3) 魚体：2月まで12cm以上の2歳魚主体、3月以降9cm～11cmの1歳魚主体。

漁況の経過（2014年8月～11月）および見通し（2015年1月～6月）についての説明

1. 資源状態

カタクチイワシ太平洋系群の推定資源量は1998（平成10）年から2010（平成22）年まで70万～150万トンで推移した。2011（平成23）年の資源量は57万トン、2012（平成24）年は58万トン、2013（平成25）年は63万トンと推定された。資源水準は過去30年で中位、動向は5年間で減少傾向である。本系群は漁場が形成される沿岸域だけでなく黒潮親潮移行域まで広く分布する。

2013年級群（2歳魚）は、2014年の北西太平洋サンマ資源調査（東北水研、6月～7月）および同年の秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研、9月～10月）において、10cm以上の魚体で漁獲され、現存量、有漁点（漁獲のあった調査点）CPUEはいずれも低水準であった。2014年秋季の道東海域流し網調査（釧路水試）において、CPUEは1994年以降で最低となり低水準であった。また、2013年11月～2014年6月の常磐・房総海域での11cm以下（1歳魚主体）の漁獲量は

16千トンで、1999年以降最低だった前年（12千トン）を上回ったが、前々年（24千トン）を下回った。これらの動向から、2013年級群は最近10年の中で見れば低水準と考えられる。

2014年級群（1歳魚）は、伊勢湾以東のシラス漁況が好調で漁獲量は前年を上回ったのに対し、紀伊水道以西の漁獲量は前年を下回った。0歳魚を主たる対象とする2014年秋季の房総沿岸2そうまきの漁獲量は、前年を上回ったが近年では低水準である。2014年秋季の道東海域流し網調査（釧路水試）において0歳魚（2014年級群）は採集されなかった。沖合域では、2014年の北西太平洋サンマ資源調査（東北水研、6月～7月）および同年の秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研、9月～10月）における9cm以下の推定現存尾数および有漁点CPUEが、2001年以降最低水準であった。以上の状況から、2014年級群のうち沖合発生群は低水準と考えられるが、沿岸発生群は、現段階では総合的な水準判断が困難である。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

(1) 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

北薩～薩南海域では、周辺海域におけるバッチ網漁業の春～夏の漁況は低調に推移したが、まき網の9月以降の漁況は非常に好調で推移していることから、前年並の来遊があると考えられる。日向灘では、近年、まき網における上半期漁況（沿岸発生群主体）について、前年10月～12月の宿毛湾まき網による漁獲動向との間に関係がみられる。宿毛湾まき網による漁獲量は前年同期を下回ったため、2015年上半期の日向灘漁況も前年を下回ることになるが、前年は非常に低調な漁況となっていたことから、総合的に判断すると、前年並に低調な漁況と予測される。豊後水道南部西側では、漁獲の主体となる1歳魚（2014年級群）が、9月以降の漁況で前年並であるものの、資源水準は最近10年の中で見れば低水準と考えられていることから、前年並～下回ると考えられる。豊後水道南部東側では、豊後水道外海から来遊すると考えられる2歳魚（2013年級群）の資源量が前年と同程度と評価されているが、夏秋季のカタクチシラスの水揚量およびまき網による0歳魚の水揚量が低調だったことから、前年を下回ると予測される。宿毛湾、土佐湾では、周辺海域における1歳魚（2014年級群）の来遊水準から前年を下回ると考えられる。紀伊水道外域では未成魚・成魚は主たる漁獲対象ではないため、まとまった漁獲はない。

(2) 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

熊野灘に来遊する大型成魚は、前年夏秋季の漁獲対象とは異なり、道東～常磐・房総海域より南下回遊する1歳魚および2歳魚であると考えられる。2014年の秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研、9月～10月）による分布状況や常磐・房総海域への来遊が前年より遅れている状況から、来遊量は前年を下回ると見込まれる。伊勢・三河湾～渥美外海では、1歳魚（2014年級群）が今期の漁獲の主体となる。2014年夏秋季のシラス漁獲量は前年を上回り、地先周辺に起源をもつ魚群の資源量は多いと考えられるため、好漁であった前年並と予測される。駿河湾では、今期の漁獲主体は、道東～常磐・房総海域より南下回遊する1歳魚および2歳魚であるが、1歳魚（2014年級群）および2歳魚（2013年級群）の資源量は低水準であると推定され

ていることから、来遊量は前年並～下回ると予測される。相模湾では、沖合域から来遊する1歳魚（2014年級群）、2歳魚（2013年級群）が漁獲の主体となると考えられ、暖水波及の影響を受けて好漁となった前年を下回ると予測される。

（3）房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

2014年秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研、9月～10月）では、東経156度～167度の親潮域にカタクチイワシが広く分布したが、推定0歳魚（2014年級群）および推定1歳魚（2013年級群）のCPUEは2001年以降で過去最低水準となった。

2013年11月～2014年6月の常磐・房総海域における漁獲量（千葉県、茨城県、福島県の計）は28千トンで、前年（48千トン）を下回った。同海域の漁獲物は、1歳魚（2013年級群）と想定される11cm以下の小型魚が漁獲物重量の58%を占め、2歳魚（2012年級群、12cm以上）は少なかった。このように、今後の主たる漁獲対象となる2013年級群の残存資源量は前年の2012年級群をわずかに上回ると考えられるが、前年同様資源水準は低いままである。また、2014年級群は秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研、9月～10月）において、2001年以降最低であった2013年級群を下回る水準であったと考えられる。以上から、来遊量は総じて前年並～下回ると予測される。なお、常磐北部海域では、現在まき網の操業自粛措置がとられている。

仙台湾～三陸南部海域の定置網では、2月まで南下群が、また5月以降に常磐・房総海域からの北上群の一部が来遊し、12cm以上の2歳魚（2013年級群）および11cm以下の1歳魚（2014年級群）が漁獲される。今期は2歳魚（2013年級群）および1歳魚（2014年級群）の資源水準が低いと考えられることから、来遊量は前年並～下回ると予測される。

三陸北部海域、道東海域への今期の来遊は少なく、定置網でのまとまった漁獲はない。

ウルメイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2015年1月～6月）

対象海域：北薩～熊野灘

対象漁業：まき網、定置網、棒受網、多鈎釣

対象魚群：0歳魚（2015（平成27）年級群）、1歳魚（2014（平成26）年級群）、2歳魚（2013（平成25）年級群）。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

(1) 来遊量：北薩、薩南、紀伊水道外域東部では前年並。

日向灘、豊後水道南部西側、紀伊水道外域西部では前年並～下回る。

豊後水道南部東側では前年を下回る。

宿毛湾、土佐湾では前年並～上回る。

熊野灘では前年を上回る。

全体としては豊漁であった前年を下回る。

(2) 漁期：全期間

(3) 魚体：前半は11 cm～20 cmの1歳魚が中心であり、後半に15 cm以下の0歳魚が加入する。

漁況の経過（2014年7月～11月）および見通し（2015年1月～6月）についての説明

1. 資源状態

産卵調査結果から算出した産卵量（日向灘～潮岬：海区III）に基づいて、本系群の水準は中位、動向は横ばいと判断した。産卵量（海区III）は1978年以降、増減を繰り返しながらも全体としては増加傾向にある。1990年代前半までは20兆～60兆粒の範囲であったが、2007年は過去最高の139兆粒に及んだ。2008年は減少したが、最近5年間（2009年～2013年）は、80兆～100兆粒の範囲にあり、2014年は100兆粒と見込まれる。

過去36年間（1978年～2013年）の年間産卵量（海区III）の最大値と最小値の間の範囲を三等分し、高位、中位、低位の水準を定義すると（ただし、1978年は前年データが無いため、最小値判断からはずした）、2013年の産卵量は中位と判断された。なお、2014年の産卵量（海区III）予測値は上位と中位の境界線上にある。最近5年間（2009年～2013年）の産卵量（海区III）から、動向は横ばいであるとするのが妥当であると判断した。

2013年の漁獲量（鹿児島県～三重県）は46千トンであり、2011年～2012年に引き続いて過去約30年間で最高水準にある。

2. 来遊量、漁期・漁場

2015年前期（1月～6月）は1歳魚（2014年級群）主体の漁況になることが推測されるため、2014年後期（7月～11月）の漁況等から1歳魚の加入状況を予測した。2015年前期（1月～6月）の後半には0歳魚（2015年級群）も加入するが、現時点では予測根拠となる情報は無い。

予測対象海域に相当する鹿児島県～三重県の主要港における前期（1月～6月）水揚量と後期（8月～12月）水揚量には、強い正の関係がある。一方、後期（7月～11月）水揚量

と翌年前期（1月～6月）水揚量には、弱い正の関係があり、統計的には有意であることから、これを予測に用いる。2014年後期（7月～11月）の水揚量は23千トンであった。

2000年～2013年の後期（7月～11月）水揚量と翌年前期（1月～6月）水揚量の間係を用いて、2015年前期（1月～6月）の水揚量は9千トンと予測された。2012年～2014年の前期（1月～6月）水揚量は、10千トン、12千トン、12千トンであった。従って、2015年前期（1月～6月）は、海域全体としては、豊漁であった前年を下回ると予測される。

北薩および薩南では、2014年級群（15 cm～20 cm）が主体となり、4月以降に2015年級群（8 cm～10 cm）が混じる。2014年級群は、代表港のまき網では前期8月以降前年を下回る漁獲量であったが、棒受網では前年並みの漁獲量であり、今期も1歳魚（2014年級群）は一定量の来遊が見込まれることから、前年並と予測される。

日向灘では、1月～5月は1歳魚（18 cm～20 cm）、6月は0歳魚が主体となる。1月～5月に主体となる1歳魚以上の漁獲量は、前年下半期の宿毛湾の漁況と関係があり、これが前年同期を上回っている。また、鹿児島県主要港まき網漁獲量とも関係があり、これは前年を下回ると予測されている。ただし、宿毛湾との関係は近年はずれてきている。従って、1歳魚以上の漁獲量は前年並～下回ると予測される。

豊後水道南部西側では、1月～3月は1歳魚（20 cm前後）が主体となり、4月～6月は0歳魚（15 cm以下）が漁獲の主体となる。1月～3月に漁獲の主体となる2014年級群は、2014年4月～11月のまき網漁獲量が前年並であり、近年の傾向同様高い漁獲であったことから予測期間中の来遊に期待が持てる。しかし、2014年1月～3月の漁獲量はここ30年のうちで2番目に高く、この漁獲水準まで達するかは不確実な部分が大い。従って、前年並～下回ると予測される。

豊後水道南部東側では、0歳魚（5 cm～10 cm）および1歳魚（15 cm～20 cm）が対象となる。周辺海域において、産卵親魚になり得る2014年級群の水揚量が、前年同期と比べて低調であることから、前年同期を下回る見込みである。

宿毛湾および土佐湾では、0歳魚（2015年級群）、1歳魚（2014年級群）が対象となる。主体となる1歳魚（2014年級群）の来遊水準は前年を上回ると考えられる。近隣海域における1歳魚（2014年級群）の来遊水準は前年を下回っていることや、前年上半期が好漁であったことも考慮すると、来遊量は前年並～上回ると予測される。

紀伊水道外域西部では、標本漁協の漁獲量データから、来遊量は前年並～下回ると予測される。

紀伊水道外域東部では、2014年冬春期の和歌山県周辺海域における卵稚仔量が前年並で平年を上回っていること、近年の紀伊水道外域東部から熊野灘における1そうまき網の漁獲量が好調に推移していることから、来遊状況は良好なことが予測され、0歳魚、1歳魚は、前年並で平年を上回ると予測される。

熊野灘では、1歳魚（11 cm～20 cm）および2歳以上（20 cm～）の産卵群が対象となる。2014年秋季には大型成魚は前年よりも早く来遊し、より大型の個体も見られる。明け1歳魚は11月時点での0歳魚のうち、来春に成熟するとみられる18 cm以上の個体の割合が前年より高く、漁獲量も前年より多いことから、産卵に加わる1歳魚は前年より多いと考えられる。したがって、産卵群の資源量は前年を上回ると見込まれる。以上より、1歳魚は前年を上回り、2歳以上は前年並～上回る。総じて、来遊水準は前年を上回ると予測される。

マアジ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2015（平成27）年1月～6月）

対象海域：北薩～熊野灘、相模湾

対象漁業：まき網、定置網

対象魚群：0歳魚（2015（平成27）年級群）、1歳魚（2014（平成26）年級群）、
2歳魚（2013（平成25）年級群）、3歳魚（2012（平成24）年級群）、
4歳魚（2011（平成23）年級群）。年初に加齢。魚体は尾叉長。

1. 北薩～土佐湾（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩～日向灘では前年を下回る。豊後水道南部西側では前年並～下回る。豊後水道南部東側～土佐湾では前年を下回る。いずれの海域も1歳魚主体となり、期後半に0歳魚が加わる。

(2) 魚体：主体となる1歳魚は15 cm～22 cm、2歳魚は22 cm～26 cm、期の後半に加わる0歳魚は14 cm以下。

2. 紀伊水道外域～熊野灘（まき網、定置網）

(1) 来遊量：いずれの海域も前年並～下回る。

(2) 魚体：紀伊水道外域西部・熊野灘で主体となる1歳魚は15 cm～22 cm。紀伊水道外域東部で主体となる2～4歳魚は24 cm～34 cm。期の後半に加わる0歳魚は14 cm以下。

3. 相模湾（定置網）

(1) 来遊量：前年並～下回る。

(2) 魚体：主体となる1歳魚は15 cm～22 cm。期の後半に加わる0歳魚は14 cm以下。

漁況の経過（2014年7月～11月）および見通し（2015年1月～6月）についての説明

1. 資源状態

資源量は1986年以降増加し、1990年代半ばは15万～16万トンと高い水準で推移したが1997年以降減少し、2009年以降は横ばいで推移した。加入量は1993年をピークに減少し、2009年以降4.9億～6.9億尾と低い水準で推移している。現在の資源量は5万～6万トン程度であり、資源水準は中位、動向は横ばいと判断される。ただし漁獲状況は海域間で異なり、相模湾以西の海域の漁況はきわめて低調であるのに対し、房総海域以北では漁獲量の減少はみられない。したがって来遊量の予測は各海域の漁獲状況を考慮して判断する必要がある。

2012年級群（3歳魚）の加入量は4.9億尾と近年の最低水準と評価されており、残存資源量は少ない。

2013年級群（2歳魚）の加入量は5.5億尾と評価されている。今期も1歳魚（2014年級群）とともに漁獲されると考えられる。

2014年級群（1歳魚）は今期の漁獲の主体となると考えられる。これまでの漁況は多くの海域で低調に推移しており、2014年11月までの情報で算出される加入量指数は2013年級群を下回った。これらのことから2014年級群の加入量水準は前年2013年級群を下回ると考えられる。

2015年級群（0歳魚）は、いずれの海域でも今期の後半に漁獲対象になるが、現時点では予測根拠となる情報は得られない。

2. 来遊量、漁期・漁場

本魚種は予測期間を通じて漁獲対象となる。来遊量については、海域ごとに、前期の漁況に基づき予測した。年齢別体長は、これまでの体長組成の推移から概ね次のとおりである。0歳魚：14 cm 以下、1歳魚：15 cm～22 cm、2歳魚：22 cm～26 cm、3歳以上：25 cm 以上。3歳以上は、現状では年齢に対応した体長区分は困難である。

(1) 北薩～土佐湾

いずれの海域も今期は1歳魚（2014年級群）が主体となる。

北薩～薩南海域では2014年8月、9月は前期の0歳魚（2014年級群）主体に好調であったが10月以降は低調に推移した。2、3歳魚（2012、2013年級群）の漁獲も低調であることから、来遊量は全体として前年を下回ると考えられる。

日向灘では、前年7月～12月の漁獲量（0歳魚主体）と当年1月～5月の漁獲量（1歳魚主体）に正の相関関係がみられる。2014年下半期の漁獲量は前年を大きく下回ったことから、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。

豊後水道南部西側では、2014年8月～11月のまき網漁獲量（0歳魚主体）が前年同期を下回ったことから、今期の来遊量は低調であった前年並～下回ると予測される。

豊後水道南部東側では、2014年8月～11月のまき網による水揚量が前年同期を下回ったほか、周辺海域の漁況も低調なことから、来遊量は前年を下回ると予測される。

宿毛湾～土佐湾では、2014年7月～11月のまき網・定置網とも前期の0歳魚（2014年級群）の漁獲量が前年を下回ったことから、今期1歳魚（2014年級群）の来遊量は前年を下回ると予測される。

(2) 紀伊水道外域～熊野灘

紀伊水道外域西部では、2014年7月～11月の漁獲量は前年同期を下回った。これまでの情報から、今期の主体となる1歳魚（2014年級群）の加入量水準は高くないと考えられることから、来遊量は前年並～下回ると予測される。

紀伊水道外域東部では、1そうまき網・2そうまき網、熊野灘南部の定置網、串本の棒受網のいずれの漁獲量も前年同期を下回った。1月～11月の太平洋岸の主要港水揚量と翌年1月～6月の本海域漁獲量に正の相関関係がみられることから、今期の来遊量は前年並～下回ると予測される。

熊野灘への来遊量は近年極めて低調で推移している。2014年7月～11月のまき網による主要4港の漁獲量は前年同期を大きく下回り、1992年以降で過去最低となった。今期も前年を上回る来遊は見込めず、来遊量は前年並～下回ると予測される。

(3) 相模湾

伊豆東岸の定置網の2014年7月～11月の漁獲量は前年同期を下回り、1980年代前半の最低水準期に匹敵する低水準であった。西湘地区の定置網漁獲量も前年同期を下回っており、今期も前年を上回る来遊は見込めない。1歳魚（2014年級群）が主体となり、来遊量は前年並～下回ると予測される。

(4) 房総海域～三陸南部海域の情報

北部太平洋まき網による2014年7月～11月の水揚量は691トン（水産庁による）と、前年同期（4,168トン）を大きく下回った。これはTAC超過を避けるため操業を自粛したことも影響している。宮城県の定置網等における2014年7月～11月の漁獲量は913トンと前年並であった。

マサバおよびゴマサバ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2015（平成27）年1月～6月）

対象海域：薩南～豊後水道南部～土佐湾、紀伊水道外域、熊野灘、伊豆諸島周辺海域、犬吠～三陸海域

対象漁業：まき網、定置網、棒受網、たもすくい等

対象魚群：1歳魚（2014（平成26）年級群）、2歳魚（2013（平成25）年級群）、3歳魚（2012（平成24）年級群）、4歳魚（2011（平成23）年級群）、5歳（2010（平成22）年級群）以上。年初に加齢。魚体は尾叉長。

1. 薩南～豊後水道南部～土佐湾（まき網、定置網等）

- (1) 来遊量：マサバは低水準。ゴマサバを主体とするサバ類全体としては、薩南では前年を下回る。日向灘では前年並～下回る。豊後水道南部では前年並～上回る。宿毛湾～土佐湾では前年を上回る。
- (2) 漁期：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となる。薩南では29 cm～36 cm 主体（2、3歳魚主体に4歳以上も）。日向灘では29 cm～33 cm（2、3歳魚）主体。豊後水道南部では、期前半は30 cm 前後（2歳魚）主体に33 cm 以上（3歳以上）も、期後半は25 cm 前後～以下（1歳魚主体、0歳魚も）主体。宿毛湾～土佐湾では25 cm～36 cm（1～3歳魚）。

2. 紀伊水道外域（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：ゴマサバ主体にマサバも漁獲対象となり、サバ類全体としては前年並～上回る。
- (2) 漁期：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：ゴマサバは28 cm～36 cm 主体（2、3歳魚主体に4歳以上も）。マサバは25 cm～38 cm 主体（1～3歳魚主体に4歳以上も）。

3. 熊野灘（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：主体となるゴマサバは、2、3歳魚は前年を上回る。4歳魚は前年並。5歳魚は前年を下回る。6歳魚は前年を上回る。ゴマサバとしては前年を上回る。マサバは前年並～上回る。サバ類全体としては前年を上回る。
- (2) 漁期：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：ゴマサバは27 cm～38 cm 主体（2～4歳魚主体、5歳以上も）に29 cm 以下（1歳魚）も。マサバは35 cm～40 cm 主体（3、4歳魚主体に5歳以上も）に30 cm 前後（1、2歳魚）も。

4. 伊豆諸島周辺海域（棒受網、たもすくい）

- (1) 来遊量：マサバ2歳魚は前年並。3歳魚は前年を上回る。4歳魚は前年を下回る。5歳以上は前年を下回る。マサバとしては前年並。ゴマサバ1歳魚は前年を下回る。2歳魚は前年を上回る。3歳魚は前年を上回る。ゴマサバとしては前年を上回る。サバ類全体としては前年を上回る。
- (2) 漁期・漁場：マサバの漁場は、1月下旬以降、伊豆諸島北部海域を中心に形成される。三宅島周辺海域にも形成される可能性がある。ゴマサバは期を通じて三宅島周辺海域が主漁場となるが、マサバに混獲される場合は伊豆諸島北部海域にも漁場が形成される。
- (3) 魚体：マサバは32 cm～35 cm（3歳魚）主体に28 cm～32 cm（2歳魚）と36 cm 以上（4歳以上）も。ゴマサバは28 cm～35 cm（2、3歳魚）主体に24 cm～27 cm（1歳魚）も漁獲される。

5. 犬吠～三陸海域（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：マサバ1歳魚は前年を下回る。2歳魚は多かった前年を下回る。3歳魚は前年を上回る。4歳魚は前年を下回る。5歳魚は前年を下回る。マサバとしては前年を下回る。ゴマサバは混獲程度。サバ類全体としては多かった前年を下回るが高水準。
- (2) 漁期・漁場：まき網では犬吠～常磐南部海域で期を通じて漁獲される。三陸海域の定置網では5月以降漁獲される。
- (3) 魚体：マサバは25 cm～30 cm（2歳魚）と20 cm～25 cm 前後（1歳魚）主体に30 cm 以上（3歳以上）も漁獲される。ゴマサバは定置網で30 cm 以上（2～4歳魚主体）が漁獲される。

漁況の経過（2014年7月～11月）および見通し（2015年1月～6月）についての説明

1. 資源状態

(1) マサバ

資源量は1990～2000年代に低い水準にあったが、近年の加入量水準の高い年級群の発生と漁獲圧の低下により資源量が増加している。

2010年級群（5歳魚）の加入量水準は近年では比較的高いが、残存資源量は高齢となって少なくなっている。

2011年級群（4歳魚）は、8月時点の資源評価（コホート解析）による推定加入尾数が7億尾と近年の平均を下回る水準であり、残存資源量は少ない。

2012年級群（3歳魚）は、推定加入尾数が17億尾と近年では比較的高い水準であり、これまでの各地漁業で漁獲されている。

2013年級群（2歳魚）は、調査船調査や漁業情報に基づく資源量指数により、加入量が近年では卓越して高い水準と推定され、これまでの各地漁業で主体となって漁獲されている。調査船調査では、6月～10月の三陸～道東海域流し網調査（釧路水試）のCPUE（1歳魚）は過去の同調査（21年間）で最も高かった。9月～10月の秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研）におけるCPUE（1歳魚）は過去の同調査（14年間）で最高であり、1歳以上としてはこれまでほぼ分布がみられなかった東経150度以東の千島列島東方沖でも出現するなど1歳魚索餌期の分布域が東方に広がっていた。残存資源量は近年の2歳魚としては卓越して多い。また、近年の2歳魚としては平均体長が小さく、成熟率が低くなると考えられる。

2014年級群（1歳魚）は、8月時点の資源評価では、5月～7月の調査船調査の結果から加入量を近年の平均を上回る水準と推定した。これまでまき網、定置網漁業などで漁獲がみられているが多くなく、2012、2013年級群の同時期を下回っている。三陸～道東海域流し網調査でのCPUEは2012年、2013年を下回った。秋季北西太平洋中層トロール調査の出現率は54.5%、平均CPUEは145.5尾/網であり、過去の同調査（14年間）において2013年を下回ったものの比較的高かった。加入量は近年の平均を上回る水準と判断される。

(2) ゴマサバ

資源量は1990年代後半以降高い水準にある。0歳時に黒潮親潮移行域を回遊して加入する群が資源の主な部分を占めるようになっている。

2010年級群（5歳魚）の加入量水準は近年の平均を上回る水準であり、残存資源量は高齢となって少なくなっている。

2011年級群（4歳魚）は、8月時点の資源評価（コホート解析）による推定加入尾数が10億尾と近年の平均程度の水準である。

2012年級群（3歳魚）は、推定加入尾数が15億尾と近年の平均を上回る水準である。

2013年級群（2歳魚）は、調査船調査や漁業情報に基づく資源量指数により、加入量が近年の平均を上回る水準と推定される。これまでの各地漁業で漁獲され、1歳魚としての漁獲は2011、2012年級群の同期を上回っている。調査船調査では、三陸～道東海域流し網調査のCPUE（1歳魚）は過去の同調査（21年間）で2012年級群を下回るが2011年級群を上回って比較的高かった。秋季北西太平洋中層トロール調査でも広く漁獲が見られ、漁場外の沖合域にも多く分布していた。残存資源量は近年の2歳魚としては比較的多い。

2014年級群（1歳魚）は、8月時点の資源評価では、5月～7月の調査船調査の結果から加入量を近年の平均程度と推定した。これまで各地で漁獲がみられており、2012、2013年級群の同時期を上回っている。

静岡県棒受網 CPUE による資源密度指数（0 歳時 11 月までの累計値）は 5,382 であり、2012 年（5,069）、2013 年（3,036）を上回っている。三陸～道東海域流し網調査の CPUE は 2012 年、2013 年を下回った。秋季北西太平洋中層トロール調査の出現率は 50.0%、平均 CPUE は 9.0 尾/網であり、過去の同調査（14 年間）において CPUE は高くないものの出現率は 2012 年を上回って比較的高かった。加入量は近年の平均を上回る水準と判断される。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

1) マサバ

(1) 来遊量

資源状態やこれまで得られている情報から、1 歳魚（2014 年級群）は多かった前年を下回る。2 歳魚（2013 年級群）は、犬吠以北海域では多かった前年をやや下回り、成魚を対象とする伊豆諸島周辺海域では、成熟率が低いと見込まれることから前年並となる。3 歳魚（2012 年級群）は前年を上回る。4 歳魚（2011 年級群）は前年を下回る。5 歳（2010 年級群）以上は残存資源量が少なくなっているが、漁獲対象となる。熊野灘以西の海域では、来遊量は少ないが前年並～上回る。

(2) 漁期・漁場、魚体

まき網漁場は、7 月～8 月中旬は鹿島灘～犬吠海域、金華山周辺、および三陸海域に、8 月下旬～9 月は三陸北部海域、道東海域に形成され、10 月に三陸中南部にも形成された後、11 月には金華山沖が中心となった。7 月～11 月の犬吠以北海域におけるまき網による漁獲量は 8.0 万トンと前年同期（5.9 万トン）を上回った。千葉県以北の定置網等による漁獲量は 5.3 千トンと前年同期（8.9 千トン）を下回った。伊豆諸島以西の海域ではおもにゴマサバに混獲され、漁獲量は 3.4 千トン（前年同期 1.8 千トン）であった。（漁獲量は各地主要港水揚げ資料および水揚げ物標本測定結果等からの推定値）

犬吠以北海域では、本予測期間は鹿島灘～犬吠海域が主漁場となると考えられる。伊豆諸島周辺海域では、漁場形成は黒潮流路変動に強く影響される。海況の予測によれば、黒潮流路は 2 月までは N 型で推移し、3 月に B 型、4 月以降は C 型となる。伊豆諸島北部海域は、2 月までは概ね冷水域に覆われ、黒潮流路の変動に伴い、黒潮から内側域への暖水波及がある。伊豆諸島南部海域は、3 月までは概ね暖水域に覆われ、4 月以降は冷水域に覆われる。漁場は北部海域（大室出しから利島、ヒョウタン瀬）を中心に、暖水波及に伴い形成される。三宅島周辺海域でも形成される可能性がある。熊野灘～紀伊水道外域ではマサバ主体の漁場形成もみられる。豊後水道南部～薩南ではゴマサバに混獲される程度となる。

年齢別尾叉長は、これまでの体長組成の推移、年齢査定の結果から概ね次の通りである。1 歳魚（2014 年級群）：28 cm 以下、2 歳魚（2013 年級群）：25 cm～32 cm、3 歳魚（2012 年級群）：32 cm～35 cm、4 歳魚（2011 年級群）：34 cm～38 cm、5 歳（2010 年級群）以上：36 cm 以上。

2) ゴマサバ

(1) 来遊量

資源状態やこれまで得られている情報から、1 歳魚（2014 年級群）は前年を下回る。2 歳魚（2013 年級群）は前年を上回る。3 歳魚（2012 年級群）は前年を上回る。4 歳（2010 年級群）以上は残存資源量が少なくなっているが、漁獲対象となる。ゴマサバ全体としての来遊量は海域によって異なり、薩南～日向灘では前年並～下回るが、豊後水道南部～土佐湾、紀伊水道外域以東では前年を上回る海域が多い。

(2) 漁期・漁場、魚体

7 月～11 月の漁況は、薩南～熊野灘の各海域では、1 歳魚（2013 年級群）と 0 歳魚（2014 年級群）を主な対象に前年を上回る海域が多かった。駿河湾周辺のまき網では前年を上回った。伊豆諸島周辺海域では 1 歳魚（2013 年級群）主体で 0～2 歳魚を主な対象に前年を上回った。犬吠以北海域のまき網では、1～3 歳

魚を主な対象に前年並であった。7月～11月の漁獲量は、薩南～紀伊水道外域は8.6千トン（前年同期実績6.2千トン）、熊野灘～伊豆諸島周辺海域は2.0万トン（同1.7万トン）、犬吠以北海域のまき網は3.0万トン（同3.0万トン）、千葉県以北の定置網などが9.9千トン（同7.7千トン）であった。（漁獲量は各地主要港水揚げ資料および水揚げ物標本測定結果等からの推定値）

本予測期間における各地の漁期・漁場および魚体は、薩南～日向灘では2、3歳魚（2013、2012年級群）主体に、豊後水道南部では期前半は2、3歳魚主体で期後半は0、1歳魚（2015、2014年級群）対象に、宿毛湾～土佐湾では1～3歳魚を対象に、紀伊水道外域では2、3歳魚主体に4歳以上も対象に、熊野灘では2～4歳魚主体に1歳魚と5歳以上も対象に、期を通じて漁場が形成される。伊豆諸島周辺海域では2、3歳魚主体に1歳魚も対象に期を通じて三宅島周辺海域を中心に漁場が形成される。犬吠以北海域のまき網では1、2歳魚主体に混獲される。定置網では6月以降に2～4歳魚が漁獲される。

年齢別尾叉長は、これまでの体長組成の推移、年齢査定の結果から概ね次の通りである。1歳魚（2014年級群）：30 cm以下、2歳魚（2013年級群）：27 cm～32 cm、3歳魚（2012年級群）：30 cm～34 cm、4歳魚（2011年級群）：32 cm～37 cm、5歳（2010年級群）以上：33 cm以上。

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	和歌山県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産技術総合センター	愛媛県農林水産研究所 水産研究センター
福島県水産試験場	大分県農林水産研究指導センター 水産研究部
茨城県水産試験場	宮崎県水産試験場
千葉県水産総合研究センター	鹿児島県水産技術開発センター
東京都島しょ農林水産総合センター	地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産研究部 水産技術センター
神奈川県水産技術センター	香川県水産試験場
静岡県水産技術研究所	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
愛知県水産試験場 漁業生産研究所	(取りまとめ機関)
三重県水産研究所	独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所